

イリヤとユーリのプリズマ☆ライフ

侍ナイト

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

98回死んで、また転生してしまった主人公。可愛い魔法少女の妹イリヤと魔法使いの姉ユーリの物語

目次

原作開始前 第四次聖杯戦争編

| | | |
|----|----------------------|----|
| 1話 | 98回目の死と99回目の生と初めての妹 | 1 |
| 2話 | 英霊召喚 ランサー（黒ウサギ）ステータス | 3 |
| 3話 | 前世ぶり日本へ帰って来た | 7 |
| 4話 | マッドアーティストとマッドキャスター | 9 |
| 5話 | 麻婆覚醒 | 11 |
| 6話 | 大空洞 | 14 |

原作開始前 第四次聖杯戦争編

1話 98回目の死と99回目の生と初めての妹

草木が焼ける臭いがあると外に出たのが私の運の尽きだった。

坂の上から大量の超可燃性オイルがすぐ近くまで流れてきていた。すでに逃げ場はなく私は超可燃性オイルに焼かれた。

まず、自己紹介しておこう。私は転生者だ。

今死んだがこれで7回転生している。

1回目は、fate/Zeroで雨生龍之介に人間オルガンにされて、ライダー達に生きている状態（キャスターの魔術）で火葬。

2回目は、月聖杯戦争でKaleidolinerのイリヤスフィール・フォン・アインツベルンを召喚、決勝で岸波白野（女）に主人公補正で負けて消滅。裏側ではアルダーエゴにイリヤもろとも消滅。

3回m：「一応、98回目な」まあ、神様が言った通りこんなに転生した98回前なんて覚ええないね。

「また、転生だがすでに決まっている。fate/シリーズどれかのアインツ家に転生してもらう」

なん：だと…衛宮家…だと。主人公一家じゃないですか。：イヤ
ダアアアア!!! Zero主人公の切嗣にStay night主人公の士郎、Kaleidolinerプリズマ☆イリヤのイリヤスフィールがいる。メイドかセラ、リーゼリットの妹かもしくは聖杯に

：「いや、そこは大丈夫だ。衛宮切嗣とアイリスフィール・フォン・アインツベルンの子だ」

小聖杯確定ですか…（泣）

「時間無いから行ってらっしゃい」

何故、衛宮家なのか聞けず、アイリスフィールに飲み込まれたのだった。

それから、ようやく出れたけど助産婦メイドが「2000年7月21日ユースマイルお嬢様誕生」

その後、1歳で令呪が現れ、歴代最小年マスターになり約2年で第六魔法生み出した。多分、これが99回の転生の中で蓄えられた魔術の知識がもたらした奇跡であると思う。

魔法開発中にアイリさん：ママのお腹が大きくなってきた。これがイリヤだろう、多分。

「ねえねえ、ユーリいつお姉さんになれるの？」

「それは、わからないわ。立派なお姉さんになるためにパパと一緒に寝れる？」

「できるー！」

「それじゃ、今日は遅いから寝ようか」

「うん」 っと言った私を切嗣：パパが抱っこする。ママも立とうすると苦しそうに倒れてしまう。パパは急いで私を降ろしてママに駆け寄る。

「アイリ、大丈夫かい」

「キリツグ、ごめんなさい。ライラさん呼んで」

ここからメイド達は、大忙しだった。日目をまたいで少したち工房の扉が行きよいよく開く。

「キリツグ様、ユーリ様、お生まれになりました!!」

セラが息を切らしながら入ってくる。

7月20日イリヤスマイルが生れたて

2話 英霊召喚 ランサー（黒ウサギ）ステータス

イリヤが生まれて1年と6ヶ月になり聖杯戦争に向けて触媒を探していた。

「ヘラクレス：魔力足りないな…」

私は今、アインツベルンの宝物庫に触媒を探しに来ていた。中には隕石や魔力を帯びた道具、英雄達が使った武具が保管されていた。

「なにこれ、髪の毛?」

和風の箱を開けると束ねた髪が入っていた。面白い効果があつて、気持ちが高ぶると緋色に代わり沈んだ気持ちになると青色に戻る性質がある。私はこの面白い髪の毛を触媒に決めたのだった。

数日後…

「抑止の輪より来たれ、天秤の守り手よ!」

魔力の風が吹き荒れそして魔力の風がやむとそこには、15、6歳位の綺麗な緑色の瞳持った金髪の少女がいた。

「サーヴァント、セイバー。召喚の招きに従い参上した。貴方が私のマスターか?」

「あ、ああ、僕が君のマスターだ」

ああ、パパもママもアーサー王が女性だったため少し焦っている。落ち着いたあと、ママがセイバーを連れて工房を出ていき、英雄召喚の準備を始める。

「召喚をします」

魔術使うために必要な魔術回路に魔力を通し召喚のための詠唱を始める。

「素に銀と鉄。

礎に意思と契約の大公。

降り立つ風には壁を

四方の門は閉じ

王冠より出で

王国に至る三叉路は循環せよ。

閉じよ。
閉じよ。
閉じよ。
閉じよ。
閉じよ。

繰り返すつどに五度

ただ、満たされる刻を破却する」

令呪が光だし魔術回路に流れる魔力多くなる。

「告げる

汝の身は我が下に

我が命運は汝の剣に

聖杯の寄るべに従い

この意この理に従うならば応えよ」

魔術回路に流れる魔力が多すぎて体が悲鳴をあげる。

「誓いを此処に。

我は常世総ての善と成る者。

我は常世総ての悪を敷く者。

汝三大の言霊を纏う七天

抑止の輪より来たれ、天秤の守り手よ！」

魔術回路で練られた魔力が魔方陣に持つていかれる、それと同時に魔力の風^{エーテル}に吹き飛ばされるがいつまで待っても痛みが来なかったのでおそろおそろ目を開けると17、8歳位のウサ耳少女がいた。

「サーヴァント、ランサーとして召喚されました。

貴女様が私のマスターですか？」

はあ？バニーガールの英霊だと。負けるk

サーヴァントステータス

【原典】月の兎、問題児シリーズ

【クラス】ランサー

【マスター】ユーリスフィール・フォン・アインツベルン

【真名】玉兎（黒ウサギ）

【性別】女

【身長・体重】?? c m・?? k g

【属性】中立・善

【ステータス】筋力B 耐久C 敏捷A++

魔力A+ 幸運D 宝具A++

【クラス別スキル】

対魔力：B

【固有スキル】

魔力放出：A

：ランサーの感情（嬉しいや怒り）により髪の毛の色が緋色（ピンク）に変わるのは、このスキルによるもの。怒りが最大になると周りにも漏れ出す。生まれつきのためかコントロール出来ない。

言語理解：EX

：兎以外の生き物や一部の幻想種との会話が可能。

魅了：C

：一部の老若男女を虜にする。ただし、弄られる。幸運ランクが低いのはこのスキルによるもの。

月の主権：I

：宝具『チャンドラ・マハール月神神殿』の使用許可のスキル。

軍神の加護：I

：軍神 帝釈天の宝具が使用許可のスキル。

【宝具】

『力を与える勝利の槍（ブラフマーストラ・レプリカ）』

宝具ランク：A

種類区分：武器・白兵 能力

発動区分：常時 対象区分：対人宝具

：相手を倒す力を受ける宝具。相手にかすっただけで相手を倒すチート宝具。

『絶対なる勝利の槍（ブラフマーストラ）』

宝具ランク：A++ 種類区分：武器・射出

発動区分：単発 対象区分：対軍宝具

レンジ：1〜50

：本来の力を持つ状態で放ったもの。第六宇宙速度（要は光速）で来る。範囲外でもかすれば相手を倒すチート宝具。一度の戦闘で一度だけ放つ事ができる、そのため単発。

『月神神殿（チャンドラ・マハール）』

宝具ランク：A++++ 種類区分：特殊

発動区分：特殊 対象区分：対軍宝具

レンジ：1〜99

：玉兎達の故郷、月へ強制的に連れて来る宝具。酸素の調整はランサーが変えることができる。ランサー最強宝具。

むしろ負ける気がしない。

「この戦い我々の勝利だ！」

パパとランサーに変な目で見られた：

3話 前世ぶり日本へ帰って来た

私は現在、アインツベルン私用飛行機の中にランサー、セイバー、ママ、イリヤと共にいる。

あ、あとアインツベルン9代当主になりました。え、アハト御爺様？私に当主証を渡したら、ポツクリ死にしました。医療メイドによると老衰だそうです。

『皆様、残り10分程で着陸いたします。シートベルトのご着用お願いいたします』

およそ12時間の空の旅は終わり、迎えの車に乗って、私達は冬木へ向かった。

side 切嗣

僕は、妻のアイリ達より半日早く冬木に来ていた。部下の久宇^{ひさう}舞弥^{まいや}に会うためだ。

とあるホテルに入り舞弥の部屋を聞き、僕とアイリ、舞弥しかわからないノックをし、開けてもらう。部屋のベッドの上には懐かしい仕事用具の入った鞆とユーリの魔術礼装が入った鞆が置いてあった。

「約9年以来ですが不備はありませんか」

他の鞆より小さな木製の鞆に入っていた、僕が愛用のしている銃『トンプソン・コンテNDER』。手に持つことでわかってしまった。ユーリとイリヤがこの銃より軽いことに涙が出てきてしまう。

「落ち着きましたか」

「ああ、すまない舞弥」

「こちら、昨日の遠坂邸の様子です」

sideユーリ

冬木へ向かう途中、車の窓を開けているとガラスで作られたような蝶が入ってきた。その蝶は私の指に泊まり舞弥さんが偵察に出してからの記憶が流れてきた。

アサシンのザイドさんがA.U.Oのバビローンでランチにされていた。

それ以外の有益な情報はなかった。

ママは、外を見て目を輝かせていた。精神年齢約900歳だとその無知な瞳が眩しい。セイバーが車を止めて、冬木市探索（と言う名のシヨツピング）を始めていた。

夕方に近づいてきたのでママと別れて舞弥さんから私の礼装をもらい冬木大橋の下まで来ていた。

みんなも気づいたと思う。これより、雨生陣営を潰しに行きます。

一話で私は、何回か前の転生でキャスター ジル・ド・レエのマスター雨生うりゆう 龍之介りゅうのすけに人間オルガンにされた事がある。

へランサー。相手の工房内でキャスターと戦う事になりそうだけど、勝てる〜※念話です。

〈相手が宝具を解放する前に倒せれば勝てますけど〉

彼らの工房に入るとタコとヒトデを混ぜたような生物 海魔（低級）が現れる。

「マスタアアアア!!!私を助けてください!!!」

「あ、うん。頑張れ」

幸運D+魅了II触手プレイとはエロいな、さすが『槍兵の英霊（R…言わせるか!!!」を最後にランサーは海魔に飲み込まれた。

「ランサーが死んだ!」

「生きてますよ、この人でなし!」

その後、ランサーのペーパーファンが私の頭にも炸裂した。

4話 マッドアーティストとマッドキヤスター

地下貯水槽で栗毛の青年は、青髪の少年の体にボルトを打ち込み狂気の作品を作っていた。

「よし、完璧。ん、おかえり旦那」

旦那と呼ばれた男は何もない場所から現れた事からサーヴァントだろう。しかし男は無言のまま青髪の少年の頭を掴み、紅い花を咲かせる。

「おのれ、今だ神はジャンヌの魂を束縛したまま放さない」

「ジャンヌってあの『聖処女ジャンヌ・ダルク』が水晶玉で見ていた彼女なの」

「そうです!! 龍之介。忌まわしき神からジャンヌを解放する為に更なる背徳を冒洗を得心の生け贄を山と積み上げるべし!!」

突然、地下貯水槽全体にキヤスターが付けた感知魔術の警報が鳴り響く。

「クラフトcraft 『爆炎弾2連 轟風弾2連』」

ルビーとエメラルドが二個ずつ投げられ、宝石に溜め込まれた魔力が混じる。

『ローターシユトウラム炎色の荒嵐』

キヤスターが防衛用に生み出した、タコ型海魔達は灰になり防御用召喚魔術ごと破壊される。

「おのれ、小娘と畜生ズのときが」

「貴方は、ここで倒します」

ランサーの手に電気を纏った黄金の槍が現れ神々しい魔力が溢れ、宝具が解放される。

「(英霊の) 座で反省なさい 『ブラフマーストラ・レプリカ力を与える勝利の槍』」

真名を解放したブラフマーストラ・レプリカはキヤスターの腹部に刺さり、勝利と言う概念が巡りキヤスターの霊核が破壊される。

「おの…れ…」

魔力粒子になり始め、「旦那ア!!」と叫びながら龍之介はキヤスターに近づき

「りゆ、龍之介…貴方に会えて…た…」

キヤスターは最後まで言い切る前に消えてしまった。

「ありがとう、旦那…」

その後、突入してきた警察に捕まり。マッドアーティストは刑務所から出てくることは一生無かった。

キヤスター消滅から1時間後

切嗣side

アイリ達と別れてからコンテナ置き場で正規のランサー途中で乱入してきたライダー、イスカンドルとアーチャー、そしてセイバーに異様な執着を持つバーサーカーが現れた。

前線を離れた僕は、冬木協会の前に来ていた。

少しすると爆走車が僕の前に止まり、中から恐怖で号泣するイリヤを抱っこしたアイリと顔が真っ青なセイバーが降りてきた。

「お待たせ、キリツグ」

「マス…アップ…おまた…ウ…した…」

さすがの最優の英霊もアイリの運転はひどく、虹色の物質を出していた。

「二度とアイリが運転する車は乗りません…」

協会の中に入るにはもう少し時間がかかりそうだ、セイバーの体調のせいで。

ついでにユーリが来るまで僕があやしてもイリヤが泣き止まなくてとてもシヨックだった。

「ママ、パパお待たせ」

「ねーねだ」

「ユーリを見ただけでイリヤが泣き止んだ、だと…」

5話 麻婆覚醒

切嗣side

「何か用かね、セイバーのマスターそれと赤^{ロート}ランサーのマスター」

※ランサーが2体のため輝く顔のディルムツトが黒^{ブラック}ランサー。

まだ、回復しないセイバーをアイリに任せ、前回と今回の聖杯戦争監督役及びアサシンのマスター 言峰^{ことみね} 綺礼^{きれい}の父 言峰^{ことみね} 璃正^{りせい}だ。

「ああ、聖杯戦争の一時中止を願いたい」

「何？」

「はい。お爺さんは、前の戦争も監督役だと聞いています。我々、インツベルンは前回、エクストラクラス・サーヴァント^{アベンジャー} 復讐者^{アベンジャー} この世全ての悪と言う英霊を召喚しました」

監督役は思い出すふりをして「ああ、4日で脱落した」と言う。

「それで先日、先代 8代目頭首 ユーブスタクハイトが遺した三次聖杯戦争の資料によると聖杯が汚染されていると」

ユーリは鞆からクリアファイルに入った資料を監督役に渡し、資料を読んだ監督役は目が飛び出しそうな位驚いていた。

「よかろう、聖杯戦争の一時中止を受託しよう、キャスター討伐後に監督権限を使おう」

「キャスターなら僕の娘とランサーが殺った。マスターの方は既にブタ箱の中だ」

ユーリはキャスター討伐の証として追加令呪を貰い合計7画をもった。

「調査のため遠坂^{とおさか} 時臣^{ときおみ}に同行して貰う。竜脈の調査は《セカンドオーナー》の遠坂にしか出来ないからだ」

「わかった、彼に明日、柳洞寺の集まるよう伝えておこう」

僕は、協会を後にした。そのあと、ユーリとランサー、セイバーと一緒に嘔吐した。もしうまく聖杯を破壊できたら、アイリにちゃんと運転免許証を取らせようと思う…

綺礼side

私は3年前、最愛の妻を亡くした。それから私 言峰綺礼はまた【自分の在り方】が解なくなっていた。

その後、右手の甲に令呪が現れ、父の紹介で父の旧友の息子で盟友の遠坂時臣氏のもとで魔術鍛練してきたが、それでも答えが見つからなかった。

ある日、師に呼び出された私は、今戦争の参加者の資料だった。

『メイガス・マードー エミヤ 魔術師殺しの衛宮』

彼は、9年前アインツベルンへ養子婿として迎え入れたと書かれていた。

つまり、か…奴はここで答えを見つけたのだ。問わなければならぬ。そして、今日やつに会えたのだ。

「こ、言峰綺礼…」

「衛宮切嗣…貴様に問いたいことがある」

「…」

このまま、奴と奴の娘は帰ってしまう。

「貴様は、アインツベルンへ行き、何を知り何を得たのだ！答えろ！衛宮切嗣！」

「家族だ、愛するべき守るべき家族えた」

なんだと、そんな…私は崩れ落ち…た…

「悪いが僕はお前が求める答えは知らない」

車のドアが閉まる音が響くのと一緒に悲鳴が響く。少し答えを獲れたようだ。

S.P. 今日の麻婆豆腐はいつもより美味かった。

ギルガメツシュ

「おのれ…綺礼め…」

綺礼

「どうした、アーチャー？まだ残っているぞ（麻婆豆腐が）」

ギルガメツシュ

「我 オレ で愉悦を感じるでない!!」

ギルガメツシュ side

綺礼が愉悦を理解した。だが、誰か我 オレ をタスケテ…クレ…

※アーチャーの舌が一時的にイカれました。
※麻婆豆腐により慢心できてません。

聖杯戦争1夜目終了時点

アサシン陣営

アサシン90人中1名脱落

聖杯戦争2夜目終了時点

セイバー陣営

セイバー 左腕負傷及び不死殺しの呪い

^{ブラック}黒ランサー陣営

ケイネス 令呪1画使用

^{ロト}赤ランサー陣営

ユーリ 令呪4画獲得

アーチャー陣営

時臣 令呪1画使用

アーチャー 一時的に麻婆豆腐により味覚障害発症

キャスター陣営（敗退）

龍之介 現行犯逮捕により牢屋

キャスター 死亡

バーサーカー陣営

雁夜 バーサーカー暴走により一時魔力枯渇

6話 大空洞

ナレーター side

早朝、冬木教会に3匹の使い魔が来ていた。一匹はカラス、一匹は鼠、一匹はとある狩猟ゲームに出てきそうなMUSIだった。

「よく集まってくれた、聖杯戦争に参加しているマスター達。世間話でもしたかったが誰一人も来ていないので早速本題に入らせてもらおう」

3匹は毛繕いを止めじつと璃正の方を見る。

「今聖杯戦争にて聖杯に不具合が生じている可能性がある。寄って今聖杯戦争は一時中止とする。翌日またここに集まるように。」

質問を受付よう、ただし人語を喋れるものに限るがね」

そのまま3匹は主の元へ帰っていった。

ユーリ side

皆様1話ぶりの私 sideだ!!

まあ、まず城に帰ったあとセイバーの左腕の治療を行った。包帯に解呪と治癒のルーン刻み回復促進させた。もし聖杯戦争が再開されたら脱落の可能性が1番高いのはセイバー陣営だ。

いろいろあって次の日になっていた。

「ふむ、少し早く来すぎてしまったかな?」

「いや、丁度だ遠坂時臣」

「そうか…では早速本題に入ろう」

パパ、時臣さん、私という順番で柳洞寺の入り口の階段を登る。半分登った所で時臣さんが右に曲がり森へ入る。

「私の祖父と父上が残した資料には聖杯の汚染に関するものがなかった」

「そうか…」

「だが、竜脈に少しおかしな所があった。これが二次と三次の前と後に録った物だ」

二次と三次の前は聖杯戦争が近いため竜脈が活性化しているのが

わかる。二次の後は竜脈は沈静化して大聖杯に竜脈が流れているが三次の後は聖杯戦争が終わったはずなのに未だに活性化している事がわかる。

「ただ、私の持つ資料で解つたのは、聖杯に不具合事くらいしかなかった」

泥沼を越え円蔵山の中、地下大空洞の最奥に着いた。

「聖杯戦争中の観測を始めよう」

そう言い時臣さんは正方形に打たれた杭に羊皮紙の角を繋ぎ転写の永昌を始める。

『Anfang
Beantworte Sie die Forderung des Ab
Boden : zur Stromung
Stromung : zum Blut
Blut : zum Pergament
Abschrift』

永昌が終わると同時に小さな宝石を1つ羊皮紙の上に落とす。すると羊皮紙が燃え上がり、星のような形に焦げてゆく。

大聖杯、円蔵山の回りだけ焼け落ちてしまった。

「な…何…?!見たことのない…あり得n…「避けよ、時臣!」?!」

アーチャーの聞こえると共に時臣さんの鼻の前を赤黒い閃光が通っていく。

「バーサーカーか!!」

「トキオミイイ…!!」

「■■■■■■■■■■!!!!!!」

黒い靄がかつた黒い騎士

バーサーカー
狂戦士と